

# 富津市子ども・子育て会議報告書

## 1 はじめに

少子高齢化・人口減少の進展による地域社会の弱体化、また核家族化や共働き世帯の増加などにより、子育て環境が大きく変化しているなか、地域を担う子ども達を育成するためには、その環境づくりに社会全体で取り組むことが必要です。

こうした中、富津市子ども・子育て会議では、平成27年3月に今後5年間の学校教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、提供体制の確保の内容及びその時期並びに次世代育成支援行動計画の主要施策を定めることで市民の様々なニーズに答えていくための「富津市子ども・子育て支援事業計画」を策定するため、審議を行ってきました。

事業計画という枠組みを策定し、次のステップとして、富津市の今後の子ども・子育て支援について討議を行い、その結果を取りまとめましたので、これを報告します。

## 2 課題の整理

今の社会状況を鑑みると、地域コミュニティや隣人関係が薄れてきており、子育てが孤立している状況が富津市においてもみられます。子育てを孤立させないことは、重要な課題であることから、本会議におけるテーマを「地域との結びつき」とし、それを実現するための共通の課題として、マタニティ、子育て中の親同士の「出会い」、地域で子育てを見守る「コミュニティ」の創出、また、本当に利用したい人、必要としている人に情報が届いていない現状があることから「情報発信の充実」について取り組むべきものとししました。

## 3 各時期における検討事項

切れ目のない子育て支援を目指し、妊娠・マタニティ期、未就園児期、学齢期に分け、それぞれに子ども・子育てに関わるテーマを出し、それに対する予算編成等を伴わず「すぐに取り組めるもの」と、予算編成や体制づくり等が必要な「中長期的に検討するもの」として検討しました。

(1) 妊娠・マタニティ期

①主な課題

孤立した子育てを防ぐためのアプローチと必要なサービスの充実を図り、これから父親・母親になる人達への個別的なサポートの充実

②テーマごとの検討事項

テーマ	すぐに取り組めるもの	中長期的に検討するもの
仲間づくり	・母子手帳の交付時に妊婦への情報提供 (安心・安全メール、イクトモの活用)	・妊娠期の教室（育児教室にマタニティの人にも来てもらえるように）の開催（土日・夜開催を検討） ・父親向けの講座の開催 ・子育て支援センターや保育所で仲間作り、ふれあい体験の場
情報提供の充実	・イベントや教室などの広報の強化	・妊娠期からきめ細かい支援（個別指導や相談体制が整っている）が行われていることをアピールするため母子手帳をもらいに来ることにネーミングをつける
経済面の保障		・妊婦健診の自己負担に対する補助 ・出産祝い金の支給
生活・子育て環境の充実		・産婦人科、小児科、耳鼻科、皮膚科など妊婦や子どもに係る医療機関の整備 ・駅のバリアフリー化 ・子どもと親が安心して利用できる公園の整備 ・公共機関のトイレ等の整備

## (2) 未就園児

### ①主な課題

子育て中の親同士が会う場等が少ないので、それをどう作り出すか、また、情報提供の充実

### ②テーマごとの検討事項

テーマ	すぐに取り組めるもの	中長期的に検討するもの
出会い、交流の場の創出	<ul style="list-style-type: none"><li>・健診の場を出会いの場に（新しく来た人や積極的でない人も入りやすい雰囲気作り、母親同士の交流する時間の確保）</li><li>・おひさま広場や既存の集まれる場所の広報の充実（利用者の声なども）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・必ず誰かいて、気軽に集まれる場所</li><li>・高齢者とも交流できる場所</li></ul>
子育てサービス		<ul style="list-style-type: none"><li>・ファミリー・サポート・センター事業の早期実施 （自分の時間を確保できるようちょっとしたこともしてもらえる一時利用サービス）</li><li>・サービス利用に対する罪悪感の解消（気軽に使えるように）</li></ul>
子育て情報の発信		<ul style="list-style-type: none"><li>・子育て応援はがき（誕生から2歳の誕生日まで育児情報等を掲載）を送付（子育て応援はがきを持っていることによる特典の検討）</li></ul>

(3) 学齢期

①主な課題

引きこもり・不登校に対する対策や子ども達が放課後等に安心して活動できる放課後児童クラブの充実や放課後こども教室の実施を図り、居場所の確保の促進。

②テーマごとの検討事項

	すぐに取り組めるもの	中長期的に検討するもの
引きこもり、 不登校対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談を受ける場、受けられる人（子どもから信頼を得られる人）の育成</li> <li>・社会との接点が切れないようどう繋げていくか</li> <li>・学校と家庭がどう向き合っていくか</li> <li>・学校内の相談体制の充実</li> </ul>
地域で子どもを見守る体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ごとで実施している地域とのミニ集会の充実（多様な立場の人を加え、テーマを絞って開催）</li> <li>・職場体験の充実（多種多様な職業の体験、講和）</li> </ul>
子どもが同じ教育を受けられる環境づくり	・既存制度の活用の周知の強化	・ある程度の権限を持って生活のコーディネートを図れる人の育成（中学校卒業位まで）
放課後の居場所づくり	・学童の普段の様子 の視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室の実施</li> <li>・指導員の研修会を実施する（年2回程度）</li> <li>・学校活動の中での地域クラブの実施（地域の中に馴染んでいく活動）</li> </ul>
その他		・スクールバスの活用充実

## 4 おわりに

震災等の経験から改めて、地域コミュニティや人の繋がり的重要性が再認識されています。このことを大きな課題意識として継続して持ち続けていき、取り組んでいくことが富津市の子ども・子育て支援をよりよくするための一歩だと考えられます。

こうしたことから、現在、富津市創生会議において進められている「富津市版総合戦略」においても、この子ども・子育て会議で検討した結果を富津市の取り組みとして、反映していただきたいと思っております。

次代を担う子ども達の健やかな成長は、よりよい富津市の発展に繋がり、その子ども達と親への支援はそれに寄与するものとなります。今後も子ども・子育て会議において市の子育て支援の一助となれるよう有意義な会議を運営していきたいと考えております。

平成27年11月25日

富津市長 佐久間 清 治 様

### 富津市子ども・子育て会議

会 長	渡辺	務
副会長	鈴木	眞廣
委 員	富井	碧
委 員	木下	照代
委 員	井上	久吏子
委 員	白井	まり子
委 員	齋藤	隆広
委 員	相澤	靖司
委 員	渡邊	武雄
委 員	能城	美佐子
委 員	君塚	善恵
委 員	岩瀬	志帆
委 員	岡村	京子
委 員	松倉	佳子
委 員	菊池	定勝